



先日、4階の階段をさらに一つ、屋上にあがってみた。ここからは視界を遮る高い建物がないため濃尾平野が一望できる。西を見やると、東海道は桑名の多度山から養老山まで南北に稜線がのびている。やがてその稜線は途中でなだらかにくだりはじめ、関ヶ原あたりで一旦消える。するとまた別の稜線が現れゆったりと山の頂(いただき)までのびている。この狭窄部を通る季節風は冬には濃尾野に雪をもたらす原因となっていて、ここの眺めを楽しむには寒い。



その津島高校に本格的な冬が来た。今朝は冷えた。スカイプ開始時の11時でも気温は4℃。日も短くなっている。冬至は5日後だ。



スカイプ開始時の日本とタイの温度差は、24度もあった

スカイプは、たいてい天気の話から始まる。まずバンコクの天気をたずねると、現在の気温は28℃で晴れ。とても乾燥しているという。こちらから驚かそうと思い、不思議な優越感をもちながら日本の今朝の寒さの話をする、軽く

「オー」と笑うだけ。どうやらインターネットで日本の寒波についての情報を手に入れていたようだ。間髪入れずに相手から「雪遊びはするのか？」(Do you play in the snow?)と質問があった。MSRの生徒は、温度差に驚く段階から、両国の気候の違いに興味をもちその違う世界に飛び込んでみたい、という段階に進んでいるのではないかとポジティブに考えてみると、画面越しの白い制服が雪のようにまぶしい。

将来何になりたいのかという話になると、今回のMSRの生徒は14歳ぐらいということもあり明確には答えられなかったが、それでも「今はいっぱい勉強していきたい」(Study, Study, Study)と連呼しながら力強く答えていたのが印象的。今回のスカイプは、前回の流れからSDGsの話題をさらに深める予定であったが、年齢的に難しすぎると判断し、その話題は別の機会に譲ることにした。それにしても、14歳女子生徒のStudyの連呼の先にあるGoal(StudyGsと呼びたい)は達成できそうな気がした。

『鬼滅の刃』に対する日本とタイの生徒の間の温度差はなかった、お互いに沸騰していた

アニメの話では、双方の生徒は言葉の壁を越えて盛り上がった。特に『鬼滅の刃(きめつのやいば)』はバンコクでも大変な人気。ある男子生徒が、スカイプ画面に映らないところで「ヤイバー！」と叫んでいる声が聞こえたほどである。3年前にナコムパトム聾学校を訪問した際には、寄宿舎の壁に『NARUTO』が描かれていたが『ヤイバー!』はそれをしのぐほどだ。それほどまでにタイ人の心をひきつけるのは、おそらく「家族愛」。タイ人は家族をととても大切にする。言葉の壁、寄宿舎の壁、国境の壁を乗り越えるとはヤバイー!(病笑)



現3年生6名は、本日が最後のスカイプであるが、次につながるものを残したい

令和3年3月に卒業を控える3年生にとっては、5回目の今回が最後のスカイプ。当初は8回を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、双方の授業期間が短くなり、また我々の授業時間確保の観点から少なくなってしまったことは残念である。まだ交流しきれていない点、日本のことが理解されていない点がある。そこで本校生徒6名が一人一人、それらについて約3分の動画を作成して、年内にMSRに送ることにした。内容は、①学校周辺の風景や登下校の様子、②授業中や部活動の様子、③家庭での過ごし方や家庭料理など、である。



今後生徒たちは、次のステージに進んだときに例えば、「コロナ禍だから留学できない、だから留学はやめた」という短絡的な発想ではなく、そういう状況だからどうするのか、工夫が必要である。確かに現地留学にまさるものはない。現地での人の動き、音、匂い、空気といったものが留学の醍醐味ではある。しかしそれが困難な状況であれば、別の形(スカイプ等のオンライン交流)で交流を深めるしかない。そのように双方が求める交流を積み重ねて準備を整えておき、さてコロナが収束したときに一気に加速すればいい。

